

たんぽぽ

2016. 12. 5



今年も SC 相模原がやってきた！

相模原市を拠点として活躍するプロサッカーチーム「SC 相模原」が、昨年からは、北里大学病院小児病棟に入院している子どもたちを元気づけるために、訪問するようになりました。今年は、石川大徳選手、岩淵良太選手の2名が訪問しました。中学部の上江先生の司会進行により、選手へのインタビューやシュートをして的を当てるゲームが行われました。インタビューでは、石川選手が、「サッカー選手になりたいと決意してからは、その夢をあきらめずに努力を続け



てきました。」と話してくださいました。また、岩淵選手からは、「今日はみんなを励ましたいと思いましたが、みんなが病気や怪我に負けずにがんばっている姿を見て、僕の方が勇気と元気をもらいました。」と話してくださいました。最後に、記念のバッチにサインをもらい、楽しい一時を過ごしました。

東海学級を訪問しました



東海学級は、伊勢原市の伊勢原小学校、中沢中学校が母体となり、1994年に開設されました(北里学級は1974年)。東海大学病院に入院している子どもたちが通級し、その多くは1か月以上の入院生活を送っているそうです。訪問した時に中学生と顔を合わせ、にこにこしながら「こんにちは」とあいさつしてくれました。

てるて姫ロマン探訪をしてきました



11月5日(土)、北里学級の上江、菅井、八里の3人と、ボランティアの菊池さんで、「てるて姫ロマン探訪」に行ってきました。

「てるて姫」は、相模原市の上溝地区(横山丘陵に沿った地域)に伝わる話に登場するお姫様です。姫は、この地に勢力を持っていた武将、横山将監の娘で、敵将の小栗判官と恋に落ち、結ばれます。しかし、父将監は夫判官に打ち滅ばされてしまうというお話です。

我々一行は、ダイエー(上溝店)の駐車場横から出発し、薄暗い木立の中を歩いて5分程で最初の湧水地(清水)へ。さらに15分程歩いて「鏡の泉」(てるて姫が産湯に浸かったといわれる湧水池)に出ました。そして、姥川の源流へ。途中、石碑群があり、「文政」と刻まれた碑の前で、上江先生に歴史の話をしていただきました。さすが社会の先生!復路では、てるて姫が刺した杖が成長し、大木になったと言われる「榎神社」(てるて神社)を通って帰路につきました。



カラスウリがありました。

相模原に伝わる伝説。ロマンがありますね。もし訪ねてみたいと思われた方は、3人の先生の誰かに声をかけてください。

北里大学病院周辺の施設(史跡)紹介 ~その④~

<相模野基線北点>

日本の国土の実測地図を初めて作ったのは、江戸時代に生きた伊能忠敬(1745年~1818年)です。19才年下の高橋至時という天文学者から測量技術を学び、55才から国土の測量を始めました。精密な測量機器などない時代に、日本の全海岸線を徒歩で測量し、17年間をかけて地図を完成させました。現在の日本地図と重ねても、ほぼ一致するくらい見事なものです。



近代日本地図は、明治15年から近代的な測量機器を使って造られました。基点を2か所決め、その2点間の距離を実測することから始めました(相模野基線)。その北側にある基点(北端点)が、相模原市立麻溝台中学校の西側(住宅地の中)にあります。近代地図の始まるの場所が、北里大学病院のすぐ近くにあるなんて、すごいと思いませんか。いつでも見学できます。※南端点 座間市ひばりが丘